

令和5年度朝来市創生会議意見まとめ

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNG な人を育む

(学校教育、生涯学習、地域づくり人材育成、市民活動の促進)

朝来市創生会議意見

- ①まちづくりと人材育成は一体的であるため、一体的な計画策定や取組として考える方が良い。
- ②主体形成と合意形成につながる場づくりが必要。
- ③子育て中の女性、妊娠中の女性、若い男性の地域での居場所や役割がない。縦割りではなく、どの年代も誰もが気軽に集え、出会い、つながる場が必要。(アクションプランに記載はあるが、実行されていない。)
- ④子育て中の人などが社会からの疎外感を感じることがないように、社会での役割や居場所を感じられるようにすることが大切。
- ⑤こども園を利用されている人への人材育成への取組はあっても、在宅児や家庭への取組がないのではないか。
- ⑥「こども園に預けないといけなような雰囲気を感じる。希望する子育てができるような雰囲気づくりが必要ではないか。」というママさんの意見を聞いたことがある。
- ⑦地域を超えて、気軽につながる場も必要である。

◆ASAGOiNG な仲間づくり

(移住定住の推進、関係人口の創出・拡大、出会いの機会の創出)

朝来市創生会議意見

- ①安心して子育てができるなど、移住推進において力を入れるところを明確にすることが重要ではないか。良さが埋もれてしまう。
- ②同窓会の開催に補助金を交付してはどうか。

◆一人一人の行動につなげる情報発信

(情報発信)

朝来市創生会議意見

--

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

(人材の確保、企業の経営支援、起業支援、希望に応じた働き方の推進)

朝来市創生会議意見

- ①子育て中の女性が短時間でも働くことを希望されている。企業の受入体制づくりを促進することが必要。
- ②子育て中の人の仕事しやすい職場であるか、求人情報だけでは分かりづらい。求人情報に、休みの取得のしやすさなど子育て中の人働きやすいかが分かる情報が必要。
- ③市内企業を知る機会を設け、生徒がライフプランを描けるようにすることが必要。
- ④新卒者だけでなく、中途採用など転職者へのアプローチを再考することが必要。一度、都市部で働いた人たちの UIJ ターンを促すための取組として。会社も経験者採用の希望もある。(前掲の同窓会への補助と一体的な動きが必要)

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進

(観光誘客、観光消費額拡大、インバウンド観光の推進)

朝来市創生会議意見

- ①田舎を前面に出し、少人数でプレミアムな体験ができるようなプログラムを造成する。
- ②体験プログラム化を通じて、地域の伝統文化の維持も目指す。
- ③国内観光客とインバウンド観光客を分けて考えることが重要。特に、インバウンド観光の層も幅広いため、どの層をターゲットとするのかを明確にすることが重要。また、国内もターゲットとする年齢層を明確にしていくことが必要。
- ④観光消費額を意識し、客単価のアップに重きを置いた観光政策を展開することが必要。
- ⑤観光ガイドの報酬額をアップすることにより、プロ化を図り、持続可能にする。
- ⑥インフルエンサーを活用した魅力の情報発信。
- ⑦メタバースを活用した観光の取組検討。

◆儲ける農林畜産業への転換

(担い手確保育成、農業所得の向上、新たな農林畜産業、森林利活用)

朝来市創生会議意見

- ①学校給食の自給率の上昇に向けて重点的に進める。
- ②儲ける農業のための大規模化を支援する。
- ③農を活かした新しいビジネスに着手する人財を育成する。
- ④できるところからデジタル活用を推進し、効率化と省力化を図る。

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

(地域コミュニティ)

朝来市創生会議意見

①縦割りで考えたり、一つの切り口で地域活動を考えたりするのではなく、総合的に考え、活動することが重要。

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

(地域共生社会の実現、多文化共生社会の実現、健幸づくりの推進)

朝来市創生会議意見

①縦割りではなく、どの年代も誰もが気軽に集え、出会い、つながる場が必要。(再掲)
②高齢者だけが集う場ではなく、色々な人(子育て中の人、子ども、障害者、若者など)が交流できる場づくりに転換をすることが必要。

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

(連携、地域公共交通、公共施設の適正配置、自然共生社会の実現)

朝来市創生会議意見

その他・全般

朝来市創生会議意見

①「しごと」も「活動」も機能から入るのではなく、「何をしたいか」といった目的から考えていくことが大切ではないか。
②「しごと」も「まち」も人財育成とセットで考えていくことが重要。
③2025 問題といわれるように、新たな就労の価値観を持つ「ミレニアル世代」が生産年齢人口の半数以上になる。今までの価値観では通用しなくなる。
④本質は、都市部でも農村部でも共通することである。その中で、朝来市としての特徴(固有性)を持つことが重要である。
⑤経済成長の時代から持続可能性を求める時代に転換したことは確かである。
⑥子育て中の人ニーズをしっかりと把握する場を設けてほしい。(気軽に発言できる、意見が言いやすい、参加しやすい)